

令和元年度

第3回「あいパル」運営委員会報告

日時：令和2年2月20日（木）19:00～20:30

場所：上戸田地域交流センター「あいパル」研修室

出席者：上戸田町会連合会 2名、一般公募1名、

サポーターズ倶楽部会員 2名、

戸田市3名（福祉総務課、協働推進課、生涯学習課 公民館担当）、

指定管理者「フレンドシップ上戸田共同事業体」 3名

以上 計11名

開会あいさつ

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。あいパルにも、イベント等を予定通りやるのかという問い合わせが何件ありました。3月中旬に予定されている「あいパルフェスタ」をはじめとした各種イベントについて、現在戸田市と協議しており、今月中には方針をお示ししたいと考えています。時間があれば、最後に新型コロナウイルスへの対応についても、確認したい点やご要望等、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

本日の議題1：避難所について

1月28日から6日間、「みんなの防災 DAYS」を開催し、講座やパネル展示など延べ530名の方にご参加いただきました。アンケートでは細かいところまで感想をいただいているので、興味・関心を持って参加いただけたのだと思う。委員のおひとりが防災士ということで、多大なるご協力をいただいた。今回の講座やパネル展の感想やご意見、来年度に向けてご提案をお願いします。

・市の助成をもらって防災士の資格を取得した。戸田には防災士会があり、2か月に1回、防災士が集まり勉強会をしている。パネル展に参加したのは初めて。最終日には、HUG（避難所運営ゲーム）体験を開催した。こちらは防災士8名が参加し、あいパルをサンプルとして、避難所を運営するときどんなことが生じるのか、ゲームを通して考えてもらう機会となった。避難所運営側の内容だが、一般市民の方が自分事として考えることができたことが、とても有意義だったと思う。

また、パネル展も関心の高い人が見に来ている印象。たくさんある展示をじっくり見ていた。ただ、グッズなどの細かい内容はトレンドが変わっていくのが現状。新しいものは性能も良いので、実物で用意することは難しい場合は雑誌などで新しい知識を発信できるとよい。簡易版のパネル展やDVDの上映は防災 DAYS以外でも行っていきたい。

男女共同参画の視点で見ると、女性の防災士が少ない。33名いる防災士のうち、女性は3名のみ。減災にするためにも女性の意見が必要で防災士養成研修講座を受講いただきたい。防災士が一人もいない町会が優先して受講できるが、町会経由で常に募集しているので、興味があればぜひ仲間になってほしい。

- ・アクティブ避難 DAYに参加したところ、聴覚障害の方がいらっしゃっており、要約筆記が行われていた。いろいろな情報伝達の方法があると感心したが、実際に災害が起きた時には、避難誘導が難しいと感じた。例えば、1人の動けない人を動かすには最低2人の人が必要、といったことも考えなければいけない。
- ・アクティブ避難 DAYでは、かまどベンチや防災備蓄倉庫などを実際に目で見て確認しながら回ることができ、勉強になった。他の方も関心を持って参加されている様子だった。「みんなの防災 DAYS」では、いろいろな取り組みがされており、楽しいイベントになっている。パネル展も6日間続けてやっているのだから、たくさんの人に見てもらえるのではないかな。いろいろな種類の最新のグッズを見られるところも良い。

- ・HUG 体験では、運営の指示を出す体験ができたので、運営は本当に大変なんだと感じられた。災害が起こったら、自分で考えて助けられることをしたい。
- ・パネル展示では、展示している備蓄品の価格や購入先の質問が多かったので、次回はそれも表示するとよい。食料は、一般的なレトルトを買っておくだけでも十分な場合もある。トイレは売っていないこともある。市役所では町会ごとに備蓄品の斡旋を行っているが、購入する人はほとんどいない。当日に会場で販売されていれば、みんな購入するかもしれない。
- ・毎月 1 日と 15 日には、災害用伝言ダイヤル等を無料で体験できる。その日に合わせて、パネルの一部を展示するのもいい。たくさんの方が訪れる場所なので、年に一度だけでなく、日常的に展示できるといい。
- ・女性への配慮という点では、避難所運営に女性も関わるよう促すパネルや、女性の防災士が考案した非常持ち出し用のキャリーバッグなどを展示した。HUG 体験の日には、実際に被災地で支援活動を行っている方に講師になっていただき、電気がつかない避難所では女性に対する暴力などの被害もあったこととお話しいただいた。地域の被災した人だけではなく、そういった目的で来る人がいる、という話もあり、男女共同参画の視点からも重要な話を聞いたのではないかと。「みんなの防災」という名前には、「自助」・「共助」が基本である、という想いが込められている。防災は一人ひとりが考える問題である一方、女性・障害をお持ちの方・外国の方、それぞれ事情が違う方もいらっしゃるという点も考えていかなければいけない。次回からは、そういった個別の事情にテーマを絞って展示を行うことも検討したい。みんなで助け合うという前提があってこそその公助だと思うので、今後も地域の皆様と一緒に考えていきたい。

- ・去年の台風の時、市役所の人たちだけに任せるのではなく、自分の住んでいる所を大切に思ってもらいたい。避難所に来た人は「お客様」のようだと感じたが、高校生が手伝ってくれた事もある。町会として、今後何ができるか考えたい。
- ・かまどベンチを見せてもらったが、鍋や燃料が入っていると思っていたのに入っていなかった。
→近くにある収納ベンチにはスコップ等の備品が入っている。実際に炊き出しを行う際には、あいパルのキッチンスタジオから鍋や固形燃料などを持っていくことを想定している。収納ベンチには指示書やマニュアルが入っているが、かまどベンチには無かった。かまどベンチにも災害時のマニュアルが入っていれば、誰が開けても行動できるのではないかと。
- ・アクティブ避難 DAY の参加者から、簡易トイレが無い時は、トイレトーパーの芯にキッチンペーパーを詰めることで代用できると聞いた。そういうちょっとした知恵も展示しておく役立つのではないかと。パネルの展示も、すべて見ていくのはやや退屈かもしれない。途中で、ゲームのようにできないか。例えば、避難するときに持っていくものを実際に用意しておき、品物ごとに点数をつけ、何を持っていくか選ぶことで自分の獲得点数を競ったり、実際にそれを詰めた鞆を持ってみて重さを実感したりできると、面白いのではないかと。避難所はホテルではないことも伝えられると思う。
- ・展示していた簡易トイレは自分で組み立てられるようになっていたが、やっている人はあまりいなかった。しかし、実際に災害が起こってから戸惑うよりは、普段からやってもらいたい。

本日の議題2：男女共同参画について

前回「男女共同参画」という言葉は固いイメージがある、というお話もあり、まずは「とだ・あんさんぶるプラン」を知っていただこうと、ミニコミ誌で4回の連載を行った。その最終回が3月号に掲載されるが、そこで一緒に何か企画しましょう、という呼びかけを行っている。また、配布資料のような、男女共同参画をテーマにした川柳の募集も考えている。

- ・川柳の募集は、どこかに発表されることがわかっていると、やる気も出るのではないか。
- 応募作品はミニコミ誌での掲載やあいパルの男女共同参画コーナーでの掲示を予定している。
- 達筆な人が習字で書いてくれたり、かっこいい形になっていたりすると嬉しい。せっかく応募しても埋もれてしまうと寂しい。
- ・サポーターズ倶楽部の中に何か関係しそうなグループがあれば、協力してもらおうといいのではないか。
- ・「男女共同参画」という言葉がテーマだとわかりづらい。例として出てる川柳は家庭のことを詠んだものが多い。たとえば、「お父さん・お母さん」「夫婦」「家庭」など日常生活に結び付くような、わかりやすいテーマを考えたい。
- ・ビリーブという名前が出てこないが、33パーセントの認知があったので、それを取り込みたい。キャラクターの名前は知らないが、ビリーブを知っている人はいるので、うまく結びつけていったほうがよい。

本日の議題3：コロナウイルスについて

コロナウイルスについて、皆さんが感じていること、伝えたいことなどがあれば、お聞きしたい。

- ・ハンドメイドショップではガーゼのマスクを取り扱っているところがある。洗濯をすれば何度も使えるので、良かったら見てみていただきたい。
- ・イベント関係は中止になってきている。小・中学校の卒業式に影響が出ないか心配。戸田第一小学校ではビデオ放送で朝礼しているとも聞いている。
- ・いろいろな情報があるので、正しい情報に基づいて行動したい。差別や風評被害を助長するような行動は慎みたい。
- ・インフルエンザやSARS、MARSでは、これまでにどれくらいの死者が出ていて、新型コロナウイルスと比べてどうなのか、等、数字で把握することは、判断の根拠になると思う。不必要に慌てず、正確な判断をするために、数字は一つの手助けとなる。公共の施設として、正しい情報をわかりやすく楽しく伝えることを心掛けたい。

<協議の結果>

- ・防災DAY S以外でも1日と15日の安否確認できる日にパネルを展示できると良い。グッズの購入先の紹介や販売を今後検討していく。展示方法もゲーム性を取り入れ、楽しめる形を検討する。
- ・かまどベンチや収納ベンチに災害時のマニュアル、備蓄一覧を入れておく。HUG 体験は町会・防災士会・あいパルが一緒になって今後も継続的に取り組んでいく。
- ・男女共同参画の拠点として、ビリーブという名前と結びつけることで、認知度向上につなげる。川柳募集など、新しい取り組みも行う。

閉会あいさつ

これまで様々な意見をお聞かせいただき、ありがとうございました。今年度の運営委員会は今回が最後となりますが、来年度の運営委員会や施設を利用した時などに、またいろいろお話をさせていただければと思います。

1年間ありがとうございました。